

第25回 ITS世界会議

25th World Congress on Intelligent Transport Systems in Copenhagen, 2018

岡 英紀¹ 絹田裕一¹ 牧村和彦²

By Hideki OKA, Yuichi KINUTA and Kazuhiko MAKIMURA

1 はじめに

ITS世界会議 (World Congress on Intelligent Transport Systems) は、欧州 (ERTICO)、米州 (ITS America)、アジア太平洋 (ITS Japan) の世界3地域のITS団体が連携して、毎年共同で開催する会議である。2018年は、第25回目の会議がデンマークのコペンハーゲンにて、2018年9月17日～9月21日の日程で開催された¹⁾。

コペンハーゲンは、2025年までに世界でもっとも Carbon Neutralな首都になることを目標に、交通安全や環境・渋滞対策に取り組んでいる都市である。北欧での開催は、2009年スウェーデンのストックホルム以来2回目となり、欧州委員会・デンマーク (コペンハーゲン) 主催のワークショップのみならず、ノルディックとしての活動を固有のセッション (Nordic Stream) を通じて紹介するなど、多様なプログラムが組まれた²⁾。本稿では、第25回会議の概要を報告する。

2 第25回ITS世界会議の概要

第25回ITS世界会議は、「ITS - Quality of Life」をテーマに開催され、96カ国から約1万3千人が参加した。

コペンハーゲン市は、行政が主体となってMaaS (Mobility as a Service) を実施しようと試みている都市である。第25回ITS世界会議では、コペンハーゲン市内でMaaSを体感できる乗換案内アプリ (MinRejseplan) が提供された。プログラム閲覧やデモンストレーションの予約機能を備えるコングレスアプリと乗換案内アプリが連携し、会議参加者の情報を乗換案内アプリ側に紐付けることで、会議期間中に公共交通を無料で利用できるパウチャーを発行することができるというものであった。

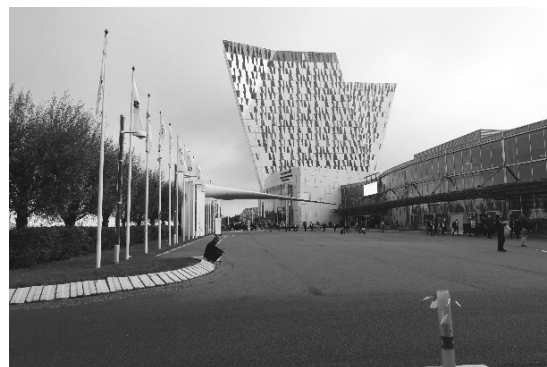


写真-1 第25回ITS世界会議の会場

(1) 展示発表

展示発表には、約400の企業・団体が出展し、各国の行政機関、国際団体等によるITS関連施策の紹介や、自動車メーカー、電気機器メーカー、情報関連企業等による自社の関連技術の展示が行われていた。

展示発表では、自動運転やライドシェアリングなど新たなモビリティに関する車両展示に加え、MaaSをはじめとする交通サービス、関連するIT技術に関する展示を多く見かけた。

その中でも、フォルクスワーゲン傘下のMOIA (モイア) は、都市の渋滞を減らすことを目的に、専用EVを使ったオンデマンド型交通サービスの世界展開を目指しており、会場ではサービスに使われる専用EVが展示されていた (2019年5月からハンブルグで商用サービスがスタートしている)。



写真-2 MOIAのオンデマンド型交通サービス専用EV

¹交通・社会経済部門 グループマネジャー ²業務執行理事、研究本部企画戦略部長 博士 (工学)

(2) セッション

セッションは、以下の8つのテーマで企画され、3つのプレナリーセッション、12コマのエグゼクティブセッション、91コマのスペシャルインタレストセッション、8コマのノルディックストリームセッションが開催された。

1. Mobility services -from transport to mobility to livability (モビリティサービス - 交通からモビリティ、住みやすさへ)
2. ITS and the environment (ITSと環境)
3. Connected, cooperative and automated transport (コネクテッド、協調、自動化した交通)
4. Next generation goods delivery (次世代配送)
5. Satellite technology applied to mobility (モビリティに適用される衛星技術)
6. Transport networks operations (交通ネットワークオペレーション)
7. Cross-border mobility solutions (国境を超えるモビリティソリューション)

スペシャルインタレストセッションでは、個別の研究テーマについて、最新の動向や課題について議論された。第25回会議では、会議のテーマにもあるように、ITS技術そのものだけでなく、ITSを活用した「Quality of Mobility」や「Quality of Life」の向上、さらには健康や都市の住みやすさについて議論されていた。また、MaaSについては、複数のモビリティサービスを単に統合するだけでなく、十分な付加価値を出すための課題やビジネス展開などについて議論されていたことが印象に残った。

(3) デモンストレーション

会場の敷地内や会場周辺の公道を活用して、12のメニューが開催されていた。その中の、会場内の自動運転シャトルやKeolisの自動運転タクシー、Local Motorsの自動運転シャトルOlliなどに試乗した。

Keolis(ケオリス)は、世界を市場に公共交通運営に関するグローバルオペレーターとして活躍しており、フランスのスタートアップ企業であるNAVYA(ナバヤ)が車体を手掛けた新型の自動運転サービスカーを展示していた。

また、Local Motorsの自動運転シャトルOlli(3Dプ

リンターにより製作)は、企業名の通り、地産地消を目指したベンチャーにより開発運営されている。説明によると、Olliはレスポンスの速さに特徴を持っており、会場では予め用意された障害の回避技術がデモンストレーションされていた。



写真-3 Keolisの自動運転タクシー



写真-4 Local Motorsの自動運転シャトル

3 おわりに

次回の第26回会議は、シンガポールにおいて2019年10月21日～25日の日程で開催される。会議テーマは「Smart Mobility, Empowering Cities」と設定されている。最先端の道路課金システムや道路交通情報提供システムなど、ITS技術を取り入れた先進的な交通システムを誇るシンガポールにおいて、活発な議論がなされることが期待される。

参考文献

- 1) 第25回ITS世界会議ウェブサイト,
<http://itsworldcongress.com/>
- 2) ITS Japan ウェブサイト,
<http://www.its-jp.org/>